16名様限定

令和６年度海外研修事業 日程

＝多様性あふれるマレーシアに学ぶ＝

期 間：2024年12月16日(月)～21日(土) 6日間

旅行実施：ベストワールド株式会社

120以上の民族が暮らすアジアの縮図「マレーシア」

マレーシアは、三大民族であるマレー系、中華系、インド系のほか、複数の先住民族や混血グループ、120以上の民族が暮らす多言語・多文化の国となっています。そのような多民族からなるマレーシアでの教育は、多様な文化や豊かな伝統が深く取り込まれており、そのような多様性に富む教育は子供たちに大変素晴らしい環境となっています。実際マレーシアの教室では様々な背景、宗教、言語や生活習慣を持つ生徒たちが在籍しており、まさに、多様性に富み、アジアの縮図といえます。複数民族が混在するなかで、子供たちは互いの価値観や民族の違いを認め、その違いを尊重し、そして受け入れることを学んでいきます。違いを認め合うことはなかなか難しいことではありますが、教師が自らがその違いを認め、生徒間の一体感を築いています。また、マレーシアでは総合的にバランスの取れた人材を育成に注力しています。例えばプレゼンテーションの場を多く設けることで、生徒たちは表現力やコミュニケーション能力の向上で考え方を理解し合うことができるようになります。そして伝統的な音楽、芸術を学ぶことで、生徒たちそれぞれが自分のルーツについてより深く理解を深め、互いを認め合うのです。このようにマレーシアでの研修は本当の意味での「多様性」について学べる機会が多くあります。

是非、この機会に関係者の皆様には奮ってご参加頂けます様、よろしくお願い申し上げます。

【マレーシアでの研修のポイント】

1. 市場

アジア市場とイスラム市場、両方の特性を観察することができる数少ない国です。成長が著しい東南アジアの注目度は世界的に高く、他では体験できない研修になります。

2. 多民族国家

マレー系、中国系、インド系から構成される多民族国家です。様々な人種に対するマーケティングやプロモーションを見ることで、多様性の中で生きていくための本質について社会体験を通して得る事ができます。

3. 英語圏

イギリス連邦加盟国の英語準公用語であるため、現地消費者と直接英語で対話ができます。海外経験の中で重要な言語の壁を日本人に馴染みのある英語を通して、コミュニケーションをとる事ができます。

※掲載された写真はすべてイメージです

2024年　海外研修事業(マレーシア・クアラルンプール)日程

月　日	曜	発着地	時　刻	交通機関	摘　　要	食
2024年 12月16日	月	成田空港ホテル	15:00	各　　自	成田空港近郊のホテルに集合。 事前研修を行います。 【成田空港近郊ホテル泊】	夕
12月17日	火	東京(成田)発 クアラルンプール着	11:20 18:25	JL-723	成田空港へ移動。 空路直行便にてクアラルンプールへ。 着後、専用車にてホテルへ。 【クアラルンプール泊】	機 夕
12月18日	水	クアラルンプール滞在			**午前:　ポリテクニック・シャーアラム校訪問　(学校交流)** 義務教育のFORM5(日本の高校2年)卒業で成績優秀者のみ入学可能な公立の職業訓練校。高等教育省管轄で一般、専門技術を学ぶ全日制。 **午後:　JICA(国際協力機構)事業現場訪問　(※予定)** マレーシアは、2019 年に 10 年間の国家開発計画「ビジョン 2030」を発表し、2030 年までにマレーシアを「所得グループ、民族、地域、サプライチェーンを越えて、公正で公平な分配と共に持続可能な成長を達成する国」にすることを目標として掲げています。JICA は、この目標達成に向け、1)先進国入りに向けた均衡のとれた発展の支援、2)東アジア地域共通課題への対応、3)東アジア地域を越えた日・マレーシア開発パートナーシップの強化に重点を置いた協力を実施しています。　【クアラルンプール泊】	朝 昼 夕
12月19日	木	クアラルンプール滞在			**午前:　HDCハラル公社にてハラル学習　又は　サイバービュー社訪問**　**※いずれも政府機関となりますので予定です** マレーシアはその戦略的な地理的位置により、理想的なハラル産業の投資先となっている。HDCによって指定された20万エーカー(約809平方キロメートル)の広さを有するハラル・マレーシア(HALMAS)工業団地は14個所あります。 また、サイバービュー社は持続可能なグローバルテクノロジーハブ開発のリーダーとしてテクノロジー企業に好ましい投資先として持続可能なエコシステムを提供。 **午後:　市場を学ぶ** **スーパーマーケットで市場調査、ハラルビジネスをされている日本人起業家の講話など** 【クアラルンプール泊】	朝 昼 夕
12月20日	金				**午前:　現地大学生とのフィールドワーク(B＆Sプログラム)** **(日本の生徒5～6名で1グループ)** **※グループ毎に行動しますので昼は基本それぞれ自由食となります。現地で昼食代をお渡しいたします。** **※マレーシアの学生の価値観を知り、より深い位置で文化を交換** ○現地大学生とともに観光地、街歩き、市場調査を行う体験プログラムです。スケジュールを自分達で企画するところからプログラムは開始です。公共機関を利用して街歩きをする中で海外生活への関心が高まり、当地の生活物価を体験する事ができます。身近な未来像に交流することで自分の夢を考える「未来への気づき」が目的です。 **夕刻:　プトラジャヤ観光(ピンクモスク、首相官邸、人口湖)**	朝 昼
		クアラルンプール発	22:50	JL-724	空港近くにて夕食後、空港へ移動。 専用車にて空港へ移動。 空路、帰国の途に。 【機中泊】	夕
12月21日	土	東京(成田)着	07:00		帰国手続き後、解散。	機

※訪問先については予定として記載おります。今後、変更となる場合があります。

※航空機便名、発着時間については変更となる場合があります。

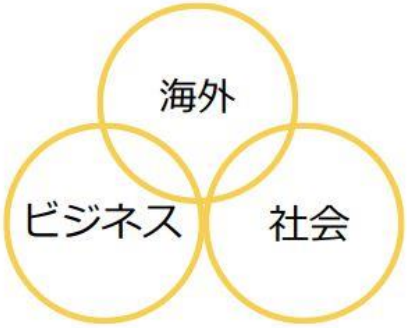
マレーシアでなぜＳＤＧｓを学ぶのか、「学び」から得て行動する

「インプット」「プロセス」「アウトプット」の3つのステップをベースとして“見て終わり”にならないプログラム。

Withコロナ時代における教育のマインドセット
「答え」がない社会に必要な能力こそ”主体性”

得られる3つのスキル

社会で問われる理想的なスキル



感じられる3つの体験

Step 1：インプット｜現状を知り、課題を発見する

観光・体験・交流から、マレーシアの現状を知り、SDGsの観点から今起こっている、そして将来おこるだろう課題を見つけてみましょう。様々な領域の人、知識や経験に触れ、視野を広げる事がStep1で最も重要なポイントです。

Step 2: プロセス｜自分ごと化で考える

課題を発見したら、自分の身の回りにおきかえ、自分たちが暮らす街で同じような課題がないかをリサーチしてみましょう。地元の人たちにヒアリングをしたり市場調査を行う事も旅行中に出来るリサーチです。

Step 3: アウトプット｜自分に何が出来るだろう（スクール・アクションプラン）

発見した視点やアイディアを言語化することで、体験を自分ごと化し、今後何を行動すべきかを明確にし継続的な行動に挑戦する。

※掲載された写真はすべてイメージです

学校交流プログラム

人と人は違って当たり前。お互いの価値観をリスペクトする社会

先入観で判断せず、相手を知ろうとする気持ち、相手が大切に思っている習慣や価値観をリスペクトする気持ちが平和とグローバルへの第一歩です。多民族国家マレーシアのスクールライフを体験してみましょう。

記念撮影

両校、学校代表の挨拶

パフォーマンス披露

バディとアクティビティ

相手を知ろうという気持ちで「ハラル」を学ぶ

ホテルシェフがおしえる"食から知るハラル"

イスラム教徒(ムスリム)の人口は世界の25%を超え、その半数以上はアジアに居住しています。アラビア語の「ハラル」とはイスラムの教えで"許されている"という意味からきており、神の教えに従って生きるムスリムの生活全般(食品、化粧品、約束、仕事など)を指します。イスラム法に則って生産・提供された商品かは「ハラル認証」マークで確認ができ、多民族・多宗教また経済発展により輸入品や加工品が増える中で国が確認し、安全なハラル商品を購入できる制度が整っています。

コーラスホテル

レストラン

マレーシアのハラル認証マーク

ハラル認証を受けたキッチン

なぜ首都機能をクアラルンプールからプトラジャヤへ移したか

住み続けられる街づくりを目指して

首都クアラルンプールでは人口増加、交通渋滞、政府機関においては市内に点在してるが故の運営非効率や家賃の高騰等さまざまな問題を抱えていました。そこで首都は変えずに行政機関のみ移転する案が可決、1999年新たに行政首都「プトラジャヤ」が誕生し、そこで働く人たちの移住を推進しました。現在約10万人の人口を移住させたプトラジャヤ計画の方法と行政都市だけにとどまらず観光地としても発展

美しいピングモスク

首相官邸

クアラルンプールの交通渋滞

CO2排出量削減への取り組み

※掲載された写真はすべてイメージです